

第 1 学 年 松 組 算 数 科 指 導 案

指導者 大須賀 章子 (T1)
佐々木 智子 (T2)

1. 単元名 たしざんとひきざん

2. 本時の実際 (3 / 4)

(1) ねらい

- 求大の場合でも加法が用いられることが理解できる。 (知識・理解)
- 求大・求小場面を、加減の式に表し計算することができる。 (表現・処理)

(2) 学習過程

過程	形態	時間	学習活動と予想される児童の反応	学習への支援	評価	T 1	学習への支援	評価	T 2
つかむ	全	10	1. 問題を読み、題意をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> あかいいろがみが6まいあります。 あおいいろがみは、あかいいろがみより5まいおおくあります。 あおいいろがみは、なんまいありますか。 </div> ・赤い色紙が6枚。 ・青い色紙は赤い色紙より5枚多い。	センターの先生から、既習の加法・減法の問題を提示してもらい、どんな式になるか考えたりして、本時の問題との違いを考えられるようにする。					
とりくむ	全	10	2. めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> まいおおい </div> ときのしきをかながえよう。 ・式とその理由、答えを考える。 ・図にして描いてみよう。 ・図から考えると6+5の式になるぞ。	座席表を使って解決方法をチェックし、全体の場で意図的な指名ができるようにする。 T1・・・窓側 T2・・・廊下側 机間巡視をしながら、戸惑っている児童には、おはじきなどで操作活動をしながらか気付くかせるようにしたり、ヒントカードを活用したりして支援する。 T1・・・S君, Rさん T2・・・T君, Yさん					
ふかめる	個	10	4. 式とその理由を発表し合う。	発表を通して全体の理解が深まるように、意図的な指名をする。 T1					
まとめる	全	5	5. 求大の問題についてまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> まいおおい </div> ときもたしざんがつかえる。ずをつかうとよい。	センターの先生にイラストを用いて説明してもらい、求大の問題がたしざんの式で表せることをおさえる。					
まとめる	個	10	6. の評価問題を解き、本時のふり返りをする。	机間指導しながら、戸惑っている子どもにおはじきやヒントカードを活用しながら支援する。 T1・・・S君, Rさん T2・・・T君, Yさん 練習問題を準備しておき、早くできた児童が取り組むようにする。 T1・T2 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 求大の問題を図を用いたりしながら、立式し答えを求めている。(評価問題) </div>					